

4 屋久島やくしま（鹿児島県屋久島町）——屋久島おおぞら高等学校

自然に囲まれ、 生きる力を引き出す島の高校

学校法人KTC学園 屋久島おおぞら高等学校 校長 宮長 芳登

●世界自然遺産の島に開校した通信制高校

屋久島おおぞら高等学校は、平成一七年四月に鹿児島県の認可を受け誕生した通信制単位制普通科の高校です。平成二九年一月末現在、七七六四名の生徒が在籍しています。昭和六〇年ごろから現在に至るまで増加の一途をたどるいじめなどの理由で不登校になってしまった生徒や、一旦高校には入学したものの、何らかの理由で中退してしまった青少年に、「安心できる居場所をつくりたい」「高等学校の卒業資格を取ってもらいたい」との熱い思いで創立されました。世界自然遺産である壮大な自然に包まれており、生徒たちに見せたい風景や他に見えない教育資源があったことから屋久島での開校が決まりました。

校名には「屋久島は世界につながる、大きな空の小さな島。この島は生命力に満ち溢れている。この無限の力のもとで、人や自然と交わる力を育みながら、ひとりひとりの内なる「生きる力」を引き出し、未来という「おおぞら」に羽ばたいてほしい」という思いが込められています。

屋久島の大自然の中で、野外活動や自然観察学習、交流活動などさまざまな体験を通して、「人と自然とのかわり」「環境保全」「自然との共生」などの意識を高めるホリステイック（あらゆる物事の「つながり」や「かわり」を意識できるよう導き、育む）教育を行っています。

●特徴ある屋久島スクーリング

スクーリングは、四泊五日または八泊九日での短期集中



屋久島：面積504.89km²、人口12,812人（平成29年2月末現在）。口永良部島と2島で屋久島町を構成。平成5年日本ではじめて世界自然遺産に登録され、その後永田浜がラムサール条約湿地に、同28年には周辺海域を含めユネスコエコパークに拡張登録。



平内地区にある校舎は、おおぞらに飛び立つ「鳥」の形をイメージして作られた。



「鳥」の胴体にあたるホールで筆者の話を聞く生徒たち。

とし、生徒は一年に一回屋久島に来て受講することを原則としています。なかには、病気やけがのため、屋久島に来られない生徒もあり、特別措置をとることもありますが、その人数は全体の二、三パーセント程度です。
各教科・科目は一斉授業で行います。それに加えて、内

発的な「生きる力」を引き出すために、KTC学園独自のグループワークメソッドを用いた

「自然体験」「遊び体験」「仕事体験」を設けています。生徒たちは、生命をテーマとするさまざまな体験を通じて、自分そして他者の生命の尊さ、輝きに気づいていきます。

屋久島の素晴らしい自然の中で、海や山に出かけての自然体験では、白谷雲水峡の太鼓岩までのトレッキングや屋久杉ランド

の散策に加えて、夏にはウミガメの産卵地となる永田浜海岸、開放感あふれる一湊海水浴場、スケールの大きな千尋の滝、豪快な大川の滝への小旅行などの中から、

生徒は好きなコースを選び活動を行います。

宿舎や校舎にも都会とは明らかに異なる豊かな水と空気、緑があります。そこで仲間と過ごし、海や山でさまざまな遊びを体験することにより、心がリフレッシュされ、内なるエネルギー

■屋久島おおぞら高校のスクールモットー



「挑戦」 夢に向かって挑戦をつづける。
「感動」 海、川、滝、空、植物、動物そして人々との触れ合いから感動を。
「飛翔」 鳥が羽ばたく姿をイメージして作られた校舎。ここから社会に力強く巣立っていく姿を想像している。

ーが引き出されます。

また、自然と共生してきた屋久島の人々の働く姿を見ながら、ともに働く体験もさせています。この仕事体験は、八泊九日の日程でスクーリングを行う生徒に参加してもらいます。季節や参加生徒の希望により体験してもらう仕事は変化しますが、ホテル、お土産物販売店、農協、幼稚園、保育園、日帰りデイサービス、ガソリンスタンド、農園、理美容店など、島の多くの皆さんからご協力を得て実施しています。屋久島の特産品であるタンカンやボンカン、パッションフルーツのジュースづくりなどの体験もあります。そして、ご協力いただいている方々には卒業式にご臨席を仰ぎ、卒業生を激励していただいています。なかには、その仕事体験がきっかけとなり、ホテルに就職したり、介護職に就いたり、幼稚園・保育園の教員を目指す生徒もいます。

● 通信制高校が地域にもたらす効果

本校教職員は、「教育の目的は生徒の幸福」「生徒にとつて最大の教育環境は教師自身」「生徒に寄り添い、共感的理解をし、自立を支援する」という基本姿勢にもとづいて



チームビルディングプログラム。新しい仲間と出会い、多くの時間を共有することで絆が深まり、視野が広がる。



キャンパスを飛び出し、屋久島の素晴らしい自然に触れる。

生徒に接しています。

また、地域の皆さんは島で働く本校教職員をあたたく受け入れてくださっており、地域の祭りや運動会、各種イベントにも声をかけていただいています。教職員も積極的に地域のクラブチームに所属して、スポーツに取り組んだり、島の方々と一緒に行うイベントを楽しんでいます。

平成二八年度にスクーリングで屋久島を訪れた生徒は六〇〇〇名強、生徒たちは高速船や飛行機で島へと移動してきます。宮之浦港や安房港、あまほろ屋久島空港から学校への生



屋久島スクーリングに訪れてくる生徒が、縄文時代の古代米づくりを行う「縄文水田」。米づくりの工程をつないでいく「リレー水田」の田植え作業。



「リレー水田」では土や植物に触れながら、一緒に作業をする仲間への信頼感や、次の工程を受けもつ人への思いも芽生える。

宮長芳登（みやなが よしと）

昭和33年、大阪府吹田市生まれ。同56年、創価大学文学部社会学科卒業後、堺市立金岡北中学校へ赴任。学校法人八洲学園を経て、平成18年に学校法人KTC学園へ。同24年4月から現職。

今後、屋久島が持つ教育資源（人・自然・気候）の力を活用させていただきながら、生徒が安心して学べる環境づくりや、自身に内在する生きる力を最大限に引き出すための教育活動を展開していきたいと考えています。

表彰もしていただきました。

徒送迎、アウトドアなどの校外学習の貸し切りバス利用は、毎週延べ二一六台、年間では延べ七〇〇台強で、それらを地元のバス会社に依頼しています。

生徒の食事の提供は、食品会社に依頼し、その会社は地元の方を雇用しています。学校内の清掃業務は本校が募集し、学校のある平内地区の一〇名の方々にお願いしています。

そのほか、校外学習の際には、町内のお土産物販売店三

店にも立ち寄り、生徒がお土産を購入しています。

島内在住の本校教職員は四〇名おり、それぞれが地域のアパートを借りて生活しています。学校所有の社宅も建設しましたが、部屋数が少ないため、そこで暮らす教職員は私を含め四名だけです。そのようなことから、地域への経済効果も少なからず存在するものと考えています。

平成二四年には、屋久島町制施行五周年を祝う式典のなかで、雇用創出および地域経済発展への寄与が認められ、